

生活創造空間

にし
NISHI

～アンラシネを目指します～

第 25 号 2015 年 10 月 20 日発行



フェスタのなかまたち

オープニング

10月といえば…

第3地区福祉フェスタの季節です

今年もこの日がやってきました！10月3日（土）に開催された第3地区福祉フェスタは今年で6回目を迎えました。生活支援センター西／藤棚地域ケアプラザ／ゆめづくり三番館／つむぎ子ども教室／みらい工房西／さらい工房／自然食品 菜月／エヌ・クラブ／ガッツ・ビーと西の9団体で企画・運営を行い、6月から毎月開催されていた実行委員会で今年はどうのようなフェスタにしようかと話し合ってきました。その他にも第3地区懇談会、百屋、H&F、西区子ども家庭支援課にも参加していただき、フェスタがより一層にぎやかなものとなりました。

オープニングイベントを今年は5階で行い、ムーミンの会の園児&児童によるソーラン節・けん玉を披露していただきました。たくさんのお子さんたちによる迫力満点元気いっぱいの発表に、見ている方々も大いに盛り上がったのではないのでしょうか。

館内のイベントではもう恒例となりました無限音工房（歌）／音のりぼん（演奏と合唱）／おどるなつこ（タップ）／朗読の会 あすなろ（朗読）による発表と、昨年から参加していただいている藤棚茶房＋ドルチェ（合唱）の発表で会場にたくさんの笑顔が生まれ、たくさんのパワーをいただきました。



午後は5階でドキュメンタリー映画「ちづる」の上映を行ないました。知的障害と自閉症のあるちづるさんの生活を1年に渡り撮り続けた映画になっています。自閉症の娘とその母とのリアルなやりとりを、実の兄が監督としてカメラを回します。ご覧になった方々が様々な思いを感じたのではないのでしょうか。

同じく5階では初めての試みとして参加事業所のご利用者による作品の特別ギャラリーを設けました。今回展示させていただいたのは生活支援センター西／みらい工房西／つむぎ子ども教室／ガッツ・ビーと西の4団体でした。書道作品、絵画、手作りのお神輿などなど、素晴らしい作品の数々にご覧になった方々の感嘆の声が多く聞こえてきました。

そして今年も西区のマスコットキャラクターにしまろちゃん、横浜市こども虐待防止キャンペーンシンボルキャラクターキャッピー、星川地域ケアプラザのほっしー、そしてウサギ、トラ、パンダ、パンダの動物たちがフェスタに集まってくれました。オープニングや抽選会にも登場し、フェスタを大いに盛り上げてくれました。ゆるきゃら達が来てくれるようになったのは2年前。来場者とふれあっている姿はすっかり第3地区福祉フェスタお馴染みの光景になっているのではないのでしょうか。子どもたちも大喜びでした。

当日は天気にも恵まれ、多くの方々に来場していただきました。子どもたちによる発表、高齢の方の歌、障がいの方々の歌、踊り、演奏と、子どももお年寄りも、障がいがある人も無い人も、みんなが第3地区福祉フェスタという1つの場所で「楽しみ」、「笑顔」を共有できたのではないかなと思いました。回数を重ねるごとに少しずつ福祉フェスタは変化をしてくれています。ですが、どんな時も「福祉からの地域発信」という福祉フェスタの目的を忘れずに、これからもより良いものを作っていきたいと思っています。ご来場された皆さん、参加していただいた皆さん、本当にありがとうございました。来年もお楽しみに！

第6回 第3地区福祉フェスタ実行委員長 岩木 慎吾



障がい当事者の思い・言葉を聞こう2

「自分たちが伝えないといけない！」という当事者の勇気ある言葉

生活支援センター西 永瀬 誠

『精神障がい者』…世間の皆さんはこの言葉にはたしてどのようなイメージを抱くのでしょうか。「怖い」「何をするかわからない」「なまけているだけ」…そのように感じている人もいるかもしれません。それでも最近では精神障がいについて TV や新聞、雑誌等々関心が寄せられることも増えてきました。しかし未だに精神障がいが脳の病気であることが知られておらず性格の問題として片付けられてしまうことも有るようです。まだまだ十分な理解があるとは言えず誤解や偏見も根強く残っています。理解がなかなか広まらないのは『精神』という見えないが故の障がいの困難さからきているのだと思います。

9 月 12 日（土）“生活創造空間にし研修～障がい当事者の思い・言葉を聴こう～第 2 弾” に生活支援センター西の利用者さん 6 名が講師として地域の方、職員らに向けて体験談をお話しされました。それぞれがお話しされた内容はその人らしさがよくよく表れ、いずれも参加者を惹きつけ聴き入らせるものでした。貴重な体験談は参加者の心に響いたのではないのでしょうか。（以下、簡単に内容をご紹介します。）

- ・A さん「日中、周囲の人から奇異の目で見られる」「信頼できる人、優しさ・温かさ・思いやりを築ける人が私たちに必要で、それは誰しも望むこと」
- ・B さん「心の健康にも日常の清潔が大事」
- ・C さん「24 時間 TV を観ていたら涙が出た。精神障がいには偏見があるからこそ自分たちが伝えないといけない！」
- ・D さん「夢は音楽療法士、音楽で人を癒したい」
- ・E さん「人のつながりを広げたくて当事者の会を立ち上げた」
- ・F さん「人生、楽しみがあるからこそ頑張れる！」

「当事者力」「当事者主体」等、福祉の世界でよく耳にする言葉です。それは西区自立支援協議会でも当生活支援センター西においても大切なテーマであり課題ともなっています。当事者力とは？当事者主体とは？

今研修に限らず全国的に力をつけた当事者の方々が自らマイクをとりご自身の体験を堂々と語り、訴え始めています。当事者が体験を話す場が増えているのは、専門家や職員ではなく、やはり体験した者にしか語れない話、体験した人だからこそ訴えられること、それらの言葉に説得力がありそのことに「価値」があるからなのだと思います。

発表を終えた後の利用者さんは安堵とやり遂げたという充実した表情をされていて、一人ひとりが新たな自信を得た様でした。そんな彼らが遅く思え職員としても誇らしく感じる一方、利用者さんのひたむきな姿に刺激を受け職員としても向上心をもち研鑽を重ねようという思いを新たにさせてもらいました。





～誰もが住みやすいまちづくりを目指して～

これから始まる

防災ご近所物語

講演会実施
しました！！

真夏の続く中、去る 7 月 25 日土曜日の午後、「生活 創造 空間 にし」5階食堂にて、岩手県社会福祉協議会 いわて障がい者就労支援センターの千葉 淳氏を講師に迎えて「1600日目の被災地から」というテーマで講演をしていただきました。これは地域活動ホーム「ガッツ・ビーと西」と西区役所が、地域のみなさまに災害時の要援護者支援について身近に考えていただくきっかけの一つとなるよう企画したものです。

会場には、各町内会・自治会会長のみなさまや、民生委員・児童委員のみなさま、地域防災拠点の役員の方など、地域活動の中心を担っている方たち、50名を超える方々にお越しいただき、地域のみなさまの関心の高さをうかがわせる講演会になりました。

～講師の千葉さんが語られたこと～

- ・発災時の住民の避難行動がどのような様子だったか
- ・「奇跡（助かった）」と「悲劇（災害の犠牲になった）」の分かれ目は？
→訓練は実際に災害が起こった時を想定して
- ・公助は後から、自助・共助が大事
- ・避難の際に障害者が困ったこと（移動手段、情報が得られない、共同生活の困難さ etc.）
- ・時間の経過とともにニーズも変化すること

岩手県にて防災対策として実際に取り組まれている「防災の手引き」や、「おねがいカード」などの活用についてのお話もあり、講演後の質疑応答の際には「要援護者名簿」の活用や、当事者への発信について、民生委員の立場からのご意見など活発な意見のやり取りが行われました。

当日行ったアンケートでは、参加者のうち約7割の方たちは要援護者支援についての関心が高まったと回答され、また、要援護者支援について考えること、日頃からのお付き合いの必要性も感じていらっしゃる事が読み取れました。

今回の講演会をきっかけに講師の千葉さんがおっしゃっていた「なにはなくとも・・・**想像力**」を武器に住み慣れた町、ご近所同士でお互いにできること・できないこと、備えておくべきことなどを一緒に考えてみてはいかがでしょうか？

地域のみなさま、障害のある方やそのご家族たち、それぞれの第一歩を一緒に踏み出しましょう！！



にしうさ美



日中活動の新たな風、ハーブプログラム



秋風が肌寒く感じられるようになったこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。
今回は日中活動のプログラムの一つ、ハーブプログラムについてご紹介させていただきます。
今年度より、関東学院大学ハーブ研究会の教授と学生の方々のご協力を賜り発足したハーブプログラムは、2年前に改築され地域の方々にも開放されている屋上庭園「檸檬」を拠点として活動しています。

これまでに2回、関東学院大学の教授と学生ボランティアの方々に来所頂き、土作りや苗植えを行ってきました。青空の下、ボランティアの方と協力しながら土を耕し、思い思いに苗を植え、休憩時間は芝生の上でのんびり過ごされるご利用者の方々の姿は、いつも作業室で拝見する姿と違ってのびのびとし、輝いて見えました。

現在育てているハーブは、ホーリーバジル、レモンバーム、カモミール、ラベンダーの4種類で、それぞれ頃合いを見て収穫し、乾燥させて商品づくりのアイディアを練っている段階です。

ハーブプログラムの様子はガッツ通信にも掲載され、ご利用者の保護者の方々からもご支持の意見を頂いており、運営委員として大変励みになっております。今後、今植えているハーブはすべて収穫し、土をならしてしましますが、また春になり暖くなる頃には新しいハーブを植えなおす予定です。来年度は第三地区福祉フェスタでのハーブ製品販売を目標に更に力を入れていきたいと思っています。

ガッツ・ビーと西 日中活動 松山



「にぎわい&にしよこ寄席」其の6 8月29日(土)報告

暑い夏の盛りが過ぎ、少し秋めく気配が感じられた
8月の最終の土曜日の午後。恒例の「にぎわい&にしよこ寄席」
6回目の開演を迎えることができました。いつものように沢山の
お客様が心待ちにしておいでくださいました。有難うございます。

演者は、連続出演を誇っていらっしゃる、桂夏丸師匠が「晩夏」
「増位山物語 -あき子慕情-」の2題を、もちろん相変わらずの
美声も披露してくださいました。

続いては本邦初出演、今年の春に二つ目昇進をしました
新進気鋭の瀧川鯉丸師匠が「ねずみ」「寄合酒」と、とても声の
通りがよく今後の活躍に期待が膨らみました。そして、時が笑い
の渦の中で瞬く間に過ぎていきました。

「にぎわい&にしよこ寄席」まだまだ続きますので
乞うご期待というところで、おあとがよろしいようで失礼いたします。

(松乃家 ふくかん)



ステーション邂逅Vol.17開催！

初秋のコンサートを終えて・・・

平成27年9月4日、第17回ステーション邂逅コンサートは定番となりつつあります「アルエム弦楽四重奏団」をお迎えしゆったり・ゆたかに・秋に向かう季節を彩って頂きました。

いつもながら本当に美しい厚みのある弦の織りあう音にしばし時の過ぎ越しを忘れたのではないのでしょうか。楽曲も聞きなれたものが多く本当に暖かなコンサートだなと感じていました。

「アルエム弦楽合奏団は2003年の4月に作曲家の堀越隆一とバイオリニストの堀越みちこによって子ども達に音楽を通して人の役に立つことの喜びを知ってほしいという願いから結成されました。合奏団の名前アルエム ArtAim は Art と Aim (志す・目指す) という二つの単語を組み合わせられています」(紹介の文章から)

当日たまたま居合わせた研修講師の方も「とってもぜいたくな・とってもいい時間でした」と伝えて頂きました。また企画していきます。楽しみにしててください。

(邂逅コンサート担当 渡辺)



腹黒日記～黒々なるまに～

☆「海の口福」をお届けします。☆

私が所属する生活創造空間にしでは東日本大震災以後、被災された地域の物産品を取り寄せさせていただき、それを地域の皆様にもお譲りする「東北物産店」なるものを継続展開している。ただ東北地方の物というわけではなく、大震災の被害に遭われた地域の作業所や授産所などで作っている商品、あるいは何等かの形で障がい者が携わっている商品を集め、販売している。今年の第三地区福祉フェスタでも皆様のご協力のおかげで東北物産ブースも盛況だった。

東北物産店には様々な物産品が並ぶが皆様にぜひご賞味いただきたい商品がある。

私が独断と偏見で選ぶおすすめベスト5を紹介しましょう。

第5位 賢治のトマト(トマト11個分が一瓶にぎゅっと凝縮)、第4位 釜石市福祉作業所の手作りキムチ(きゅうりが一番人気、キャベツ、大根、白菜も)、第3位 越田鮮魚店の焼まつも、第2位 越田鮮魚店ののしか、第1位 越田鮮魚店のさんまみりん干し。その他、越田鮮魚店からのラインナップとしては漉き昆布、ほたての貝ひもなどの乾物を始め、塩蔵わかめ・いかの塩辛などもある。たくさんの魅力的な商品がある中からオフサイドすることなく是非、越田鮮魚店産であることを確かめいただきたい。(腹ぐろーる)



カモメの向こうに越田鮮魚店(岩手県大槌町)

生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)